



大正13年に設立された川口信用金庫は、地域貢献を理念にかかげ、平成28年には川口市栄町に新本店をグランドオープンした。同信金では、Sophos XG Firewallによるインターネットのセキュリティ対策の強化を推進している。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



川口信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/ksb/>

川口信用金庫

本店本部 所在地 埼玉県川口市栄町3-9-3
理 事 長 木村 幹雄
創 業 大正13年3月1日(1924年)
出 資 金 21億28百万円
会 員 数 65,903人
常勤 役職員数 714人

預 金 量 9,070億19百万円
融 資 量 4,895億79百万円
店 舗 数 45店舗
(令和3年3月31日現在)

ソフォスソリューションズ
Sophos XG Firewall



優れたパートナー企業からのアドバイスで、Sophos XG Firewallを積極的に活用できるようになりました。

川口信用金庫
事務部 次長 兼 システム課長
国分 良孝氏

「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、地域に根ざして地域と共に歩んでいる川口信用金庫。同信金は、全役職員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組んでいる。また、大切な預金者の情報を守るために、情報セキュリティ対策にも注力し、同信金の事務部では、セキュリティ対策にも高い危機意識を持ち、Sophos XG Firewallによる防護の強化に取り組んでいる。

ビジネスチャレンジ

「経営と業務の視点からインターネットのセキュリティ対策の重要性を強く認識」

川口信用金庫で経営企画部や本店営業部など、金融業務と経営に携わり、平成24年にシステム課長に就任した事務部 次長 兼 システム課長の国分良孝氏は、セキュリティ対策に取り組んできた経緯を次のように振り返る。

「きっかけは、2015年に発生した日本年金機構で発生した情報漏えい事件でした。あの事件をきっかけに、金融機関がインター

ネットを經由したセキュリティ対策を強化すべきだと強く認識しました。そこで、当時は数多くのセミナーや研修会に参加しました。その中で、特権IDの重要性やインターネットを經由して届くメールの危険性などを知り、セキュリティ意識が高くなりました。そこで、まずは海外から届くすべてのメールを防御するために、Eメールのセキュリティ製品を導入する必要があると判断したのです。上層部に危機意識を強く訴えて、特別に予算を確保して、SG 210 UTMを導入しました」

テクノロジーソリューション

「トップドメインの保護からスタートして Sophos XG Firewallを活用」

SG 210 UTMを採用した経緯について、国分氏は「当時から、複数のベンダーのセキュリティ対策ソフトを利用していましたが、その中心はエンドポイント対応でした。そこで、インターネットを経由して侵入してくるメールをゲートウェイでブロックできるアプライアンス製品を導入したい、という要望をシステムインテグレーターに依頼したところ、機能や性能を評価してSG 210 UTMを提案してもらいました。他の製品は比較せず、提案を信用して採用しました」と説明します。

そして「導入直後から、私が管理者として、Email Protectionで日本以外のトップレベルドメインをすべてブロックする設定を登録しました。当初は、.netドメインもブロックしていたので、業務で必要なメールが隔離されてしまったときには、手作業でサルベージするなどの作業も行っていました」と国分氏は当時の対応を語ります。

SG 210 UTMの導入からしばらくして、かつ

て本部移転の際に国分氏と懇意にしてたシステムエンジニアと雑談をし、それがきっかけで大きな転機が訪れる。国分氏は「担当者が代わったことで、SG 210 UTMの利活用が大きく前進しました。それまで、納品時に「無効化」されていて、使えないと思っていた機能が、実はFull Guardサブスクリプションでライセンスの契約が含まれていて、Eメールプロテクション以外にも、効果的なセキュリティ対策が、すべてSG 210 UTMで対応できるようになりました。サポートの経験がある担当者から教えてもらおうと、改めてSG 210 UTMは、いかに優れたセキュリティ対策製品であるかを再認識しました」と評価する。

導入の成果

「Webミーティングの急増にもSophos XG Firewallの設定で柔軟に対応」

SG 210 UTMの導入からしばらくして、2020年XG310に更新し、現在は、Sophos XG Firewallを活用している。ソフォスのUTMの直観的にわかりやすい管

理インターフェースに精通したことで、新たに解決された業務の一例として、国分氏はWebミーティング対応の効果を紹介する。

「コロナ禍により、当信金でもWebミーティングが急増しました。WebexやZoomによるWebオンラインセミナーも急増したことで、各支店から本部データセンター間のVPN回線帯域のパフォーマンスが原因で、動画がカクカクする、といった問題が発生しました。そのときに、パートナー企業の担当者から、Sophos XG FirewallでUDPのリアルタイムの音声と映像パケットのみを大容量の回線へ迂回させることで、無事に輻輳問題を解決しました。当信金のXGが複数のWANアクセス回線を収容（4回線）していたので対応することができました。セキュリティ対策だけと思っていたSophos XG Firewallが、アイデア次第で守備範囲外の問題でも解決できる製品に化ける“シロモノ”であることを教えてもらいました」と国分氏は楽しそうに説明する。

製品の機能に加えて「ソフォスのサポート対応にも、とても満足しています。外資系のセキュリティベンダーの中には、サポート窓口で電話すると、担当者が出るまでに何度も

自動応答のボタンを押さなければならなかったり、ときには堂々巡りで、結局また最初の自動音声案内という振り出しに戻る、といった経験もありました。それに対して、ソフォスのテクニカルサポートでは、24時間受け付けています。万が一のインシデント発生や、その予兆に『待った』は許されないのです。こうしたエンドユーザーがアクセスし易いテクニカルサポートは、製品の性能に加えて何よりも安心感につながります」と国分氏は信頼を寄せます。

今後の展望

「ゴールのないセキュリティ対策を強化するためにソフォス製品に期待を寄せる」

今後に向けて国分氏は「現在は、複数のベンダーのセキュリティ対策製品を防御するポイントごとに導入していますが、Sophos XG Firewallとソフォスのエンドポイントセ

キュリティ製品で実現できるSynchronized Securityには注目しています。また、Synchronized Securityをより安全に運用する方法にも関心があります。ファイアウォールはセキュリティの要となるので、マシンルームで直接オペレーションする、といった安全策をとっています。現在は、多要素認証を組み合わせ、クラウド経由でSophos Centralによる運用監視も利用しています。今後も、より安全で利便性の高い運用方法をパートナーやソフォスからアドバイスしてもらいたいと考えています」と話す。さらに「当信金のセキュリティ対策は、お客様から預かっている大切な情報資産を守るための取り組みにも通じます。それだけに、より安全で安心なセキュリティ対策をソフォスからも提案してもらえたらと願っています」とソフォス社への期待を語る。

